ity; 20) Vision; 21) Auditory, mechanosensory, and electrosensory systems; 22) Olfaction, gustation, and other chemical senses; 23) Circulation, respiration, and the gas bladder; 24) Excretion and osmoregulation; 25) Feeding, nutrition, and growth; 26) Reproduction; 27) The genetics of fishes (by A. Gharrett); 28) Behavior: doing what fishes do best (by M. Barton). Part Four. Population, species, and communities. 29) Ecology: environments, habitats, and adaptations (by M. Barton); 30) Distribution and migration (by C. Swift); 31) Fishes and human endeavor. (KS)

□ **生態学**

新動物生態学入門——多様性のエコロジー. ——片野　修. 1995. 中央公論社, 東京. 240 pp. ISBN 4-12-101274-7 C1245. ¥740（税込）. 最近の生態学の内容を紹介した本. (KM)

□ **その他**

シーラカンスの謎. ——キース・トムソン（清水長：訳）. 1996. 河出書房新社, 東京. 231 pp. ISBN 4-309-25081-5. ¥2,500（税込）. シーラカンス発見をめぐる逸話が詳しく書かれた面白い本である. Smithの人柄などは魚類学に関係する人にとって興味深い. (KM)

Biodiversity and Evolution.——Ryoichi Arai, Masahiro Kato and Yoshimichi Doi (eds.). 1995. The National Science Museum Foundation（科学博物館後援会）, Tokyo. x+336 pp. ISBN 4-9900433-0-8. ¥6,700（税込）. 1994年11月に国際生物学賞の授賞式（受賞者はErnst Mayr）に合わせて, 第10回生物学に関する国際シンポジウム“生物多様性と進化”が日本学士院において開催された. 本書はそのproceedingsで, 以下の15篇の論文からなる. Part I. Commemorative lecture. 1) Species, classification, and evolution (by E. Mayr); 2) Ernst Mayr—1994 Laureate of the International Prize for Biology (by W. J. Bock). Part II. Biodiversity and species concept. 3) Systematics: the foundation of biology (by P. H. Raven); 4) Biodiversity in cetaceans (by J. G. Mead); 5) The species concept versus the species taxon: their roles in biodiversity analyses and conservation (W. J. Bock). Part III. Symbiosis and coevolution. 6) Membrane heredity, symbiogenesis, and the multiple origins of algae (by T. Cavalier-Smith); 7) Insect-plant coevolution and speciation (by J. Yokoyama); 8) Mimicry as a model for coevolution (by J. R. G. Turner). Part IV. Phylogeny and evolution. 9) Phylogeny and evolution of the algae (by M. Melkonian, B. Marin & B. Surek); 10) The higher fungi: their evolutionary relationships and implications for fungal systematics (by J. Sugiyama & H. Nishida); 11) Evolution and phylogeny of the Metazoa with special reference to recent advances in molecular phylogeny (by R. Ueshima); 12) “Ontogeny and Phylogeny” revisited: 18 years of heterochrony and developmental constraints (by P. Alberch). Part V. Morphological diversity and its genetic base. 13) The genetic control of morphogenesis in Arabidopsis and its relevance to the development of biodiversity (by H. Tsukaya); 14) Towards a molecular understanding of developmental mechanisms underlying the origin and evolution of chordates (by N. Satoh); 15) The evolution of homeobox genes (by T. R. Burglin). (KS)

会員通信・News & Comments

魚類学雑誌
43(1): 40–41

CBE Manual新版の正誤表
CBE Scientific Style and Format Errata

当学会の編集システムの充実ぶりはすでに定評のあるところだが, 学会機関誌「魚類学雑誌」上で読者とくに若手研究者の学術論文作成上の啓蒙に力を入れている点でも評価されるべき数少ない学会の一つといえる. そのような健全な運営方針の下で, かねて生物学系編集者協議会（米国ノースブルック）が手掛けている論文作成手引き書の

第5版(1983)と最新刊第6版(1994)を近年(1993および1995)の誌上で次々に紹介して，読者の関心を誘っている．第6版の紹介記事では，挿図作成上の問題点について「第5版と同様，ほとんど触れられていないのが残念」と指摘されているが，それはこの協議会が別に手引き書（下記）を1988年に公刊しているからである．ところで第5版までは協議会が単独で発行していたが，第6版ではCambridge Univ. Pressとの共同発行である．非会員への市販は後者の担当である．上記の図書紹介などに従ってこの新版をすでに購入済みの読者もあろう．そのような方々のために，その第6版の正誤表が最近(1995年10月付)協議会機関誌"CBE Views"に発表されたことをお知らせする．有料である本誌の記事としてその正誤表をここに転載紹介するのは，著作権に抵触する恐れがあるため差し控えるが，ご希望の向きへは当方から写しを無償で配付できる（ただし余裕のある方からの郵送料の提供は歓迎）．増刷の際には発表分を含めた誤植が訂正されることはいうまでもない．写しの請求先と協議会関連データを次に列記する．

正誤表写しの無償請求先　オウディクス　トウキョウ　153 東京都目黒区三田4-4-1 (1511) 電話／ファクス：03-5421-0877（送付を確実にするためファクス利用など書面による請求を望む）

CBE挿図作成手引きの購入要領　CBE Scientific Illustration Committee, ed. 1988. Illustrating science: standards for publication. Bethesda, Md., Council of Biology Editors. xi+296 p. 非会員価格，$49.95; 会員価格，$39.95; 海外への航空便送料；$10. 前払制．クレジットカードでの支払い可．協議会へ直接注文できる．

協議会への詳細照会先　Alison Brown, Executive Director, Council of Biology Editors, Inc., 60 Revere Drive, Suite 500, Northbrook, IL 60062, USA.
Phone: +1-708-480-6349; Fax: +1-708-480-9282; E-mail: 昨年11月現在調整中（当協議会は事務局を1995年秋上記ノースブルックへ移した）

参　考　文　献

Annonymous. 1995. Scientific style and format: errata. CBE Views, 18: 93.
宮　正樹．1993．論文の書き方三題．書評．魚類学雑誌，40: 117-120.
MM. 1995. Scientific style and format: the CBE manual... 6th ed. 図書紹介．魚類学雑誌，42: 98.

（高木和徳　Kazunori Takagi: 〒153 東京都目黒区三田1-4-4-1511）

魚類学雑誌
43(1): 41-42

ナミダフグの学名
Japanese Name of the Puffer, *Torquigener hypselogeneion*

ナミダフグは松浦(1988)によってシッポウフグ属*Torquigener*の1種に対して提唱された和名である．この和名が付けられたとき，シッポウフグ属の分類学的研究がHardyによって行われていたため，学名の決定は彼の研究結果を待って行うことにした．Hardyの一連の研究(Hardy, 1983a, b, 1984, 1989)によって本属の分類学的問題はほぼ解決されたので，ナミダフグと日本に分布するその近似種について紹介する．

ナミダフグの学名は*Torquigener hypselogeneion* (Bleeker, 1852)である．本種はシッポウフグ*Torquigener brevipinnis* (Regan, 1902)とよく似ているが，以下の特徴で区別できる．ナミダフグの体側には暗褐色縦線が1本あり，この暗褐色線は生時には明瞭で，連続的で途切れることがない．標本になっても暗褐色縦線は明瞭である．これに対して，シッポウフグでは体側の1縦線は茶色で，生時には不連続で，途切れている．標本になると連続的になることもあるが，ナミダフグと比べると不明瞭である．

ナミダフグの口から鰓孔までの頭部側面には4本の暗褐色横帯があり，シッポウフグでは5本の茶色の横帯がある(Fig. 1)．また，ナミダフグの体背方は暗褐色で不規則な小白色斑が多数あるが，シッポウフグでは体背方に多数の不規則な小白色斑がある点はナミダフグと同様であるが，体背方の地色が茶色である．また，ナミダフグの胸鰭条数は13-15本で，シッポウフグでは15-16本である．

ナミダフグはアフリカ東岸から太平洋のサモア

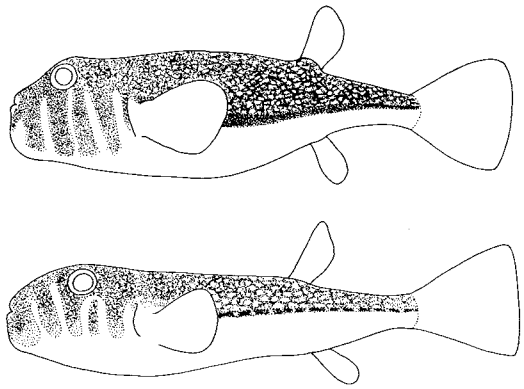

Fig. 1. Diagnostic color patterns in *Torquigener hypselogeneion* (top) and *T. brevipinnis* (bottom).

諸島までの熱帯域に分布し，日本では八重山諸島に分布する．シッポウフグは伊豆半島以南の南日本からインドネシアにかけて分布し，パプアニューギニアからも記録されている．

引 用 文 献

Hardy, G. S. 1983a. Revision of Australian species of *Torquigener* Whitley (Tetraodontiformes: Tetraodontidae), and two new generic names for Australian puffer fishes. J. Roy. Soc. N. Z., 13: 1–48.

Hardy, G. S. 1983b. The status of *Torquigener hypselogeneion* (Bleeker) (Tetraodontiformes: Tetraodontidae) and some related species, including a new species from Hawaii. Pacif. Sci., 37: 65–74.

Hardy, G. S. 1984. Redescription of the pufferfish *Torquigener brevipinnis* (Regan) (Tetraodontiformes: Tetraodontidae), with description of a new species of *Torquigener* from Indonesia. Pacif. Sci., 38: 127–133.

Hardy, G. S. 1989. Description of a new species of *Torquigener* Whitley (Pisces: Tetraodontidae) from South Africa, with a key to the genus. Nat. Mus. N. Z., 3: 119–123.

松浦啓一．1988．フグ科．益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫（編），pp. 348–351, 458, pls. 329–332. 日本産魚類大図鑑，東海大学出版会，東京．

（松浦啓一 Keiichi Matsuura 〒169 東京都新宿区百人町3–23–1 国立科学博物館動物研究部 e-mail: matsuura@kahaku.go.jp）

魚類学雑誌
43(1): 42

国立科学博物館と東京大学大学院理学系研究科による連携大学院
The National Science Museum Opens the Door for Students to Get Ph.D.

国立科学博物館と東京大学は協定書を交わし，1995年4月から連携大学院を発足させた．この連携によって国立科学博物館の6人の研究者が東京大学の併任教官となった．内訳は動物研究部に2人（教授1人，助教授1人），植物研究部に2人（教授1人，助教授1人），地学研究部に1人（助教授），人類研究部に1人（教授）である。動物研究部では武田正倫動物第3研究室長が教授併任，松浦啓一動物第2研究室長が助教授併任である．

この連携大学院設立の目的の一つに系統分類学の後継者養成が挙げられている．系統分類学の後継者養成は魚類についても大きな問題であるが，海産無脊椎動物などでは事態は深刻である．国立科学博物館には多くの分類群の専門家が揃っているにもかかわらず，その指導を受けて学位を取得することは制度的な壁があって不可能であった．今回の連携によって，東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻に入学した学生は，国立科学博物館の併任教官の指導を受けて学位を取得できるようになった．大学院生は生物科学専攻の進化多様性生物学分野に所属し，国立科学博物館に設けられた大学院生室で研究活動を行うことになる．

昨年8月末に初めて修士の入学試験があり，2人が試験を通り，今年2月の博士課程編入試験によって2人が博士課程に入ることになった．4人の大学院生のうち2人（修士1人，博士1人）が動物研究部に入り，あとの2人は植物研究部に入った．動物研究部に所属する修士の大学院生は魚類の系統分類学的研究を始めている．今年度の修士入学試験は8月末に行われ，博士課程編入試験は来年2月に行われる予定である．連携大学院に関する情報を入手したい人は下記に連絡されたい．

（松浦啓一 Keiichi Matsuura 〒169 東京都新宿区百人町3–23–1 国立科学博物館動物研究部 e-mail: matsuura@kahaku.go.jp）

第4回世界水族館会議
Fourth International Aquarium Congress Tokyo

世界各国の水族館長を中心とする関係者が一堂に会する，水族館関係で唯一の国際会議です．第4回目を迎える今回の会議では，東京都葛西臨海水族園がホスト館となり，アジアで初めて開かれます．各分野の研究者，専門家，市民，行政実務家が，それぞれの視点から，21世紀における都市施設としての水族館のありかたを論議していきます．

本会議はメンバー制をとっておらず，水族館周辺の問題に関心のある多くの方に広く開かれた会議です．水生生物の飼育技術や保護，建築・設備，環境問題，教育・文化，経営など，水族館をめぐる幅広い分野で，研究発表や情報交換が行われます．口頭発表のほかに，ポスターセッション，ビデオセッション，企業展示ブースも設置する予定です．

主　　催：東京都・第4回世界水族館会議実行委員会
テ　ー　マ：グローバルチャレンジ「共生水の惑星」
会　　場：東京国際展示場コングレス
会　　期：1996年6月14日（月）－27日（木）
会議登録料：36,000円

セッション
オープニングセッション：理念セッション――7つの海から――
研究発表
新展示・研究：魚類・海藻・無脊椎動物・海産哺乳動物・繁殖・人工孵化・採集・輸送・生態系展示の試み
水処理・設備：循環濾過システム・オゾン
教育活動：環境教育・新情報のメディアの活用・ボランティア活動
都市と水族館：都市の文化施設・水族館・ランドスケープデザイン・展示演出・ソフトデザイン・水族館の経済・マーケティング
保全戦略：水域の保全と水族館の役割・種保存計画・飼育下繁殖・野外活動計画
未来水族館：新水族館紹介・計画中の水族館紹介

問い合わせ先：第4回世界水族館会議事務局
〒134 東京都江戸川区臨海町6-2-3
東京都葛西臨海水族園内
TEL 03-3869-0284
FAX 03-3869-5155

会記・Proceedings

魚類学雑誌
43(1): 43–48

1995年度　第4回役員会

1996年2月27日（火），於　東京水産大学資源育成学科会議室．出席者：沖山，尼岡，松浦，佐野，林，馬場，大竹，瀬能，藤田，上野，山本（学会事務センター）．

1. 前回議事録の確認．
2. 報告事項　編集：*Ichthyological Research* 43(1)を2月20日に発行した．評議員へ郵送により諮った編集顧問6名（国内1，海外5）と著者負担超過頁代の値下げは了承された．庶務：第17期日本学術会議団体登録期限は5月31日．
3. 会長(1998–1999年度)選挙開票結果　投票総数26，有効票26，無効票0――沖山宗雄（7票）新井良一（5票），松浦啓一（4票），その他1名（2票），8名（各1票）．以上の結果，沖山宗雄氏が次期会長に選出された．
4. 評議員(1996–1999年度)選挙開票結果　51名の評議員が選出された．北海道地区（5名）：尼岡邦夫，仲谷一宏，矢部　衛，山崎文雄，後